

世代間連合国際会議

会議の概要

日時：2015年7月21日～24日

場所：米国ハワイ州ホノルル市「ハワイアン・コンベンションセンター」

主催：Generations United（米国）

共催・協力：ICIP(国際世代間交流協会)、JANCA(高連協) 等

[案内]

平成27年2月9日

高連協関係団体各位

〒101 - 0041

東京都千代田区神田須田町2-23

SSビル7階

高齢社会 NGO 連携協議会（高連協）

共同代表 樋口恵子

堀田 力

世代間連合国際会議参加のご案内

日本はもとより OECD、東アジアの各国では、高齢化等社会変化の中で、世代間の相互理解と支え合う仕組みづくりが求められており、「世代間交流活動」が様々に推進されております。

こうした国際的状況の中で、世界初の第1回「世代間連合国際会議」(Generations United International Conference：略称 GU 国際会議)が、本年(2015年)7月21日から24日まで、米国ハワイ市(ハワイコンベンションセンター)で開催されます。

この会議は、米国の GU (Generations United：会員2,000万余)が世界の関係団体に呼び掛けて開催するもので、私共日本の高齢社会 NGO 連携協議会(Japan NGO Council on Ageing)は会議の共催団体として開催協力することになっております。

会議の概要は、下記のとおりで、私共高連協の共同代表・樋口恵子はこの会議で「日本の世代間活動」についての基調講演を致しますが、日本での活動実践者や専門家が多数参加される予定です。

つきましては、貴会員等関係各位に、この会議のご紹介と参加ご案内を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本件のご案内につきましては、業務を「シニア旅行カウンセラーズ((株))」に委託しておりますので、ご了承ください。

会議の概要

日時：2015年7月21日～24日

場所：米国ハワイ州ホノルル市「ハワイアン・コンベンションセンター」

主催：Generations United（米国）

共催・協力：I C I P(国際世代間交流協会)、JANCA(高連協) 等

テーマ

基調テーマ：世界における世代間の取り組み状況

小テーマ：①エイジ・フレンドリー・コミュニティ
～世代間の視点から

②環境

③健康とウェルネス

④多世代の労働力

⑤生涯学習・教育

⑥家族の世代間関係

日本からは樋口恵子代表が「日本の世代間活動～文化伝承と新しい多世代支えあい活動」をテーマとして高連協を代表として発表するほか数名の方が発表する予定です。

一般参加者の募集

世代間交流が高齢化社会への対応・対策として有力なものとなる世界の潮流を掴むうえで、格好の機会となる今回の国際会議への参加を特に関係NGOの方々や自治体の関係者に強くおすすめします。

参加者の集約

高連協はGUより日本の参加者の集約を依頼されていますので、別記ツアーに参加するしないに拘わらず、別紙アンケートで下記宛に報告をお願いします。

日本からの参加者による意見交換会

高連協では会議期間中に日本からの参加者の皆様による意見・情報交換会を現地で催す予定をしています。

参加についてのアンケート送付・申し込み先

会議参加と旅行申し込み双方の事務作業を下記に委託しました、今後各種のご案内をいたしますのでよろしくご配慮願います。

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-4-5 清水ビル 3階

電話 03-5298-7820 FAX 03-5298-7821

株式会社シニア旅行カウンセラーズ

以 上

[報告]

世代間連合(GU)国際会議報告

高連協オピニオン広場 投稿日: [2015-09-10](#) 作成者: [janca](#)

去る7月 21 日～24 日に米国ハワイ州ホノルル市のハワイ・コンベンション・センターにおいて、米国の世代間連合(GU、Generations United)主催、ICIP(世代間プログラムのための国際共同事業体)、高連協(JANCA、高齢社会 NGO 連携協議会)、シーガルスクール、国連-ハワイの共催による、世界初の世代間連合(GU)国際会議が、「地球規模での世代間アクション」と題するテーマで開催され、無事成功裡に閉幕した。参加国は11ヶ国・地域、参加者は約140名で、米国66%、日本23%、その他(欧州・アジア等)が11%であった。高連協、ならびに高齢社会をよくする女性の会からは樋口恵子高連協共同代表(高齢社会をよくする女性の会)を始めとした16名がこの会議に参加した。



○オープニングゼネラルセッション、ワークショップセッション、特別セッション等
本会議は7月23～24日。オープニングゼネラルセッションでは6名のキーノートスピーカーによる基調講演が行われ、日本からは樋口恵子高連協共同代表と杉啓以子江東園経営企画管理本部長(高連協個人会員)が講演した。樋口恵子高連協共同代表は、「日本における世代間交流」と題して、内閣府『高齢社会対策大綱』(2012年改訂)が、高齢者も支えられる側から支える側に大転換したこと、学校と近隣の地域社会間の協力等を紹介し、戦争を体験して生きてきた高齢者の活用・活躍は、平和な未来を探求し続け得ると信じていると結んだ。同代表は、杉啓以子江東園本部長による「世代間プログラム:地域社会の再形成」と題する、28年間にわたる江戸川区の江東園等の経験をもとにした世代間プログラムの実践報告とともに、世代間分野での日本

の取組みの存在感を示した。

23・24 日のワークショップセッションでは、穂積恒高連協理事 (FOIFA [Friends of IFA] 理事長)、高連協正会員のアジアエイジングビジネスセンターの小川全夫氏、草野篤子日本世代間交流学会会長、FOIFA のアユック・エヨン・クリスチャン副理事長と渡邊まり子氏が、各々の専門分野の報告を行った。

24 日朝、前日の昼の GU アワードセッションでは、「子どもを支える生涯功績賞」を受賞したロバート・パットナム (ハーバード大学教授) が特別講演。同氏は、現在の地域社会の崩壊等による子どもたちの機会格差の広がり現象を示し、その改善方向を示唆した。

その他、22 日にはエバビーチ・オーシャンポイントとカポレイのシーガルスクールを訪問し、幼児とデイケアに通ってくるシニアとの日常交流を視察。24 日には、ホノルル郊外の、オーシャンビューの素晴らしい高台にある「モアナルナ・プラザ」という CCRC (継続介護付きリタイアメント・コミュニティ) の施設を視察。2012 年建設の真新しい建物で入居者は 160 人、8 割が日系人。利用料は月当たり独立居住で 5,500 ドル、日常生活動作支援で 6,700 ドル。1 カ月 60 万円の利用料には溜息。羨望は忽ち諦観に変わる。ハワイの老後も貯えが必要！

OGU 国際会議を振り返っての所感

忙しく感じる日程であったが、国際会議全体を振り返っていくつかの所感を述べたい。

・基調講演、ワークショップ、特別講演等それぞれの内容が、そこからさまざまな実相が教えられ、且つ知的刺激に富むものであった。

・世界的にも、また日本でもさまざまな格差問題についての議論が高まっている最中に、ロバート・パットナム氏によって報告された、子どもたちの機会格差問題には少なからず衝撃を受けたが、裏返せばそれは今回の会議開催が正に時宜を得たものであることを物語っているのではなからうか。

・高連協が、1 年半にわたってこの国際会議のリーダーシップチームに升田忠昭高連協理事 (高連協 GU 委員会委員長) を送り込み、主催の GU と連携、協力しながら今回の国際会議開催に漕ぎ着け、一定の成果を上げたことは大きな意義があると思う。

・今後、世代間の問題への取り組みが国内的に、あるいは国際的に拡がり、成果を上げていくかどうかは私たちの努力如何に関わる。したがって、会期中、高連協、高齢社会をよくする女性の会の参加メンバーが一堂に会し、樋口代表を囲んで交流の場を持ったが、その時、このような会議が日本でも開催されたいと、期待を込めて述べられた樋口代表の言葉は大変意味があると思う。

・国際会議は、さまざまな人と交流し、視野を広げられる、また、参加した仲間とも胸襟を開いて付き合うことのできるいい機会であると痛感した。 (玉木康平記)